



田んぼダムの 普及における課題



農家にメリットはあるのか

発生しない生産効果

設置費用＋維持管理



農家に大きなメリットはない

受益と負担

取り組みの負担者 $\neq$ 取り組みの受益者

● 取り組み実施に際する負担の公平性担保



農家が「取組むほうが得」と思える仕組み



支援の仕組み作り

取組の普及には

取組農家の
負担軽減

都市住民も協力して、
草刈や排水マスの見回りなど
維持管理作業に参加

インセンティブ
の形成

行政による支援

農家の負担を軽減
地域ぐるみの取組

持続的な取組・効果

経済価値の一部を農家に還元する仕組み



田んぼダムを支える 仕組みづくり

(4) 資源向上支払の対象活動

- 水路、農道等の軽微な補修、景観形成等の農村環境の良好な保全といった地域資源の質的向上を図る共同活動を支援。
- 加えて、農地周りの水路、農道等の補修・更新等による施設の長寿命化のための活動を支援。

(1) 地域資源の質的向上を図る共同活動

- ・施設の軽微な補修は、協定に位置付けた全ての施設等について必要な取組を毎年度実施（機能診断結果に基づき実施の必要性を判断）
- ・農村環境保全活動は、取り組むテーマを1以上定めた上で、そのテーマの計画策定、啓発・普及及び実践活動をそれぞれ実施
- ・多面的機能の増進を図る活動は、防災・減災力の強化や農村環境保全活動の幅広い展開（高度な保全活動又は1テーマ以上追加して農村環境保全活動を実施）等を実施

[主な活動例]

①施設の軽微な補修

機能診断



施設の機能診断

実践活動



水路のひび割れ補修

②農村環境保全活動

啓発・普及



生き物調査による啓発

実践活動



植栽活動

③多面的機能の増進を図る活動

防災・減災力の強化



田んぼダム（田んぼに降った雨を、排水口を絞り、ゆっくり排水、一時的に水を貯め、洪水被害を軽減）

農村環境保全活動の幅広い展開



水田水路の設置

(2) 施設の長寿命化のための活動

- ・農地周りの農業用排水路、農道などの施設の長寿命化のための補修・更新等の活動を実施

[主な活動例]



老朽化した水路壁のコーティング



未舗装の農道を
アスファルトで舗装

(注) 上記3の活動に直ちに取組めない地区については、交付単価の5/6を乗じた交付金を受けて①及び②の活動に取り組むことも可能

見附市の事例

田んぼダム最先端地区 — 見附市

7.13水害の経験から田んぼダムを市が推進

1200haで田んぼダム実施



市の単独予算で2500本配布



営農への影響が小さく
確実な効果

2023年の実施率調査



脅威の実施率 **96%!**



交付金の受け皿としての広域協定

見附市の多面的機能支払の活動組織

「見附市広域協定」 市内全65農村集落が加入

構成員： 14,000名（うち農家 2,140名）

水田面積： 2,360ha

畑地面積： 138ha

広域協定事務局

専任事務局員：2名

➡ 申請書・報告書の書類作成

➡ 農家はそれぞれの活動に専念



田んぼダムにかかる活動の内容と活動への支払い

多面的機能支払
集落配分

多面的機能支払
事務局直轄事業費

見附市独自財源

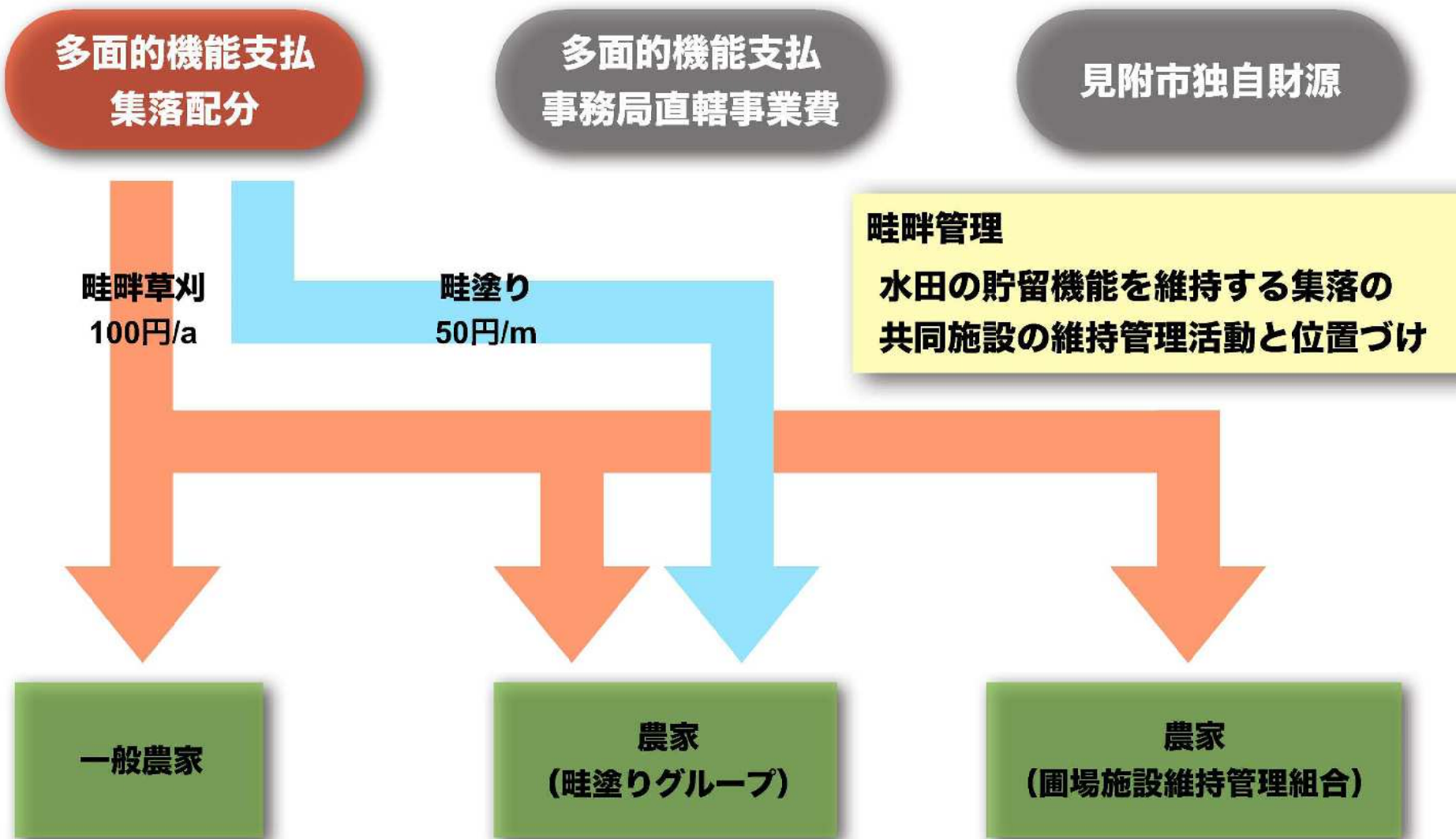
一般農家

農家
(畦塗りグループ)

農家
(圃場施設維持管理組合)

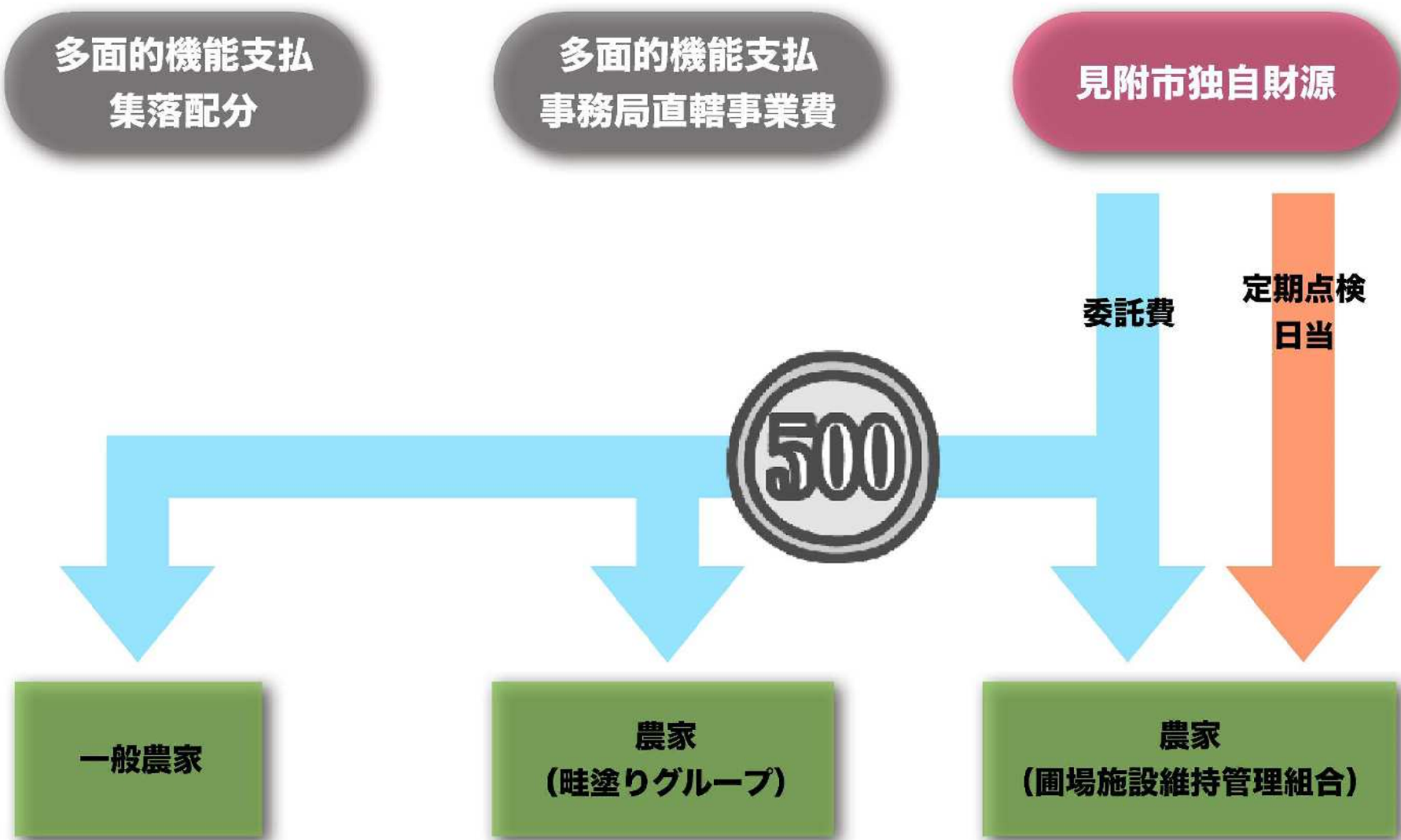


田んぼダムにかかる活動の内容と活動への支払い





田んぼダムにかかる活動の内容と活動への支払い



田んぼダムの目的意識

行政機関

国（農林水産省）

戦略的制度設計（多面的機能支払等）

都道府県

重点地区の設定・独自施策の構築

市町村

合意形成・広域協定の形成

→ 流域治水

取組主体（農家・土地改良区・農協などを含む）

「田んぼダム」の名を借りて

制度を営農に役立てる

畦の管理や共同作業



結果として

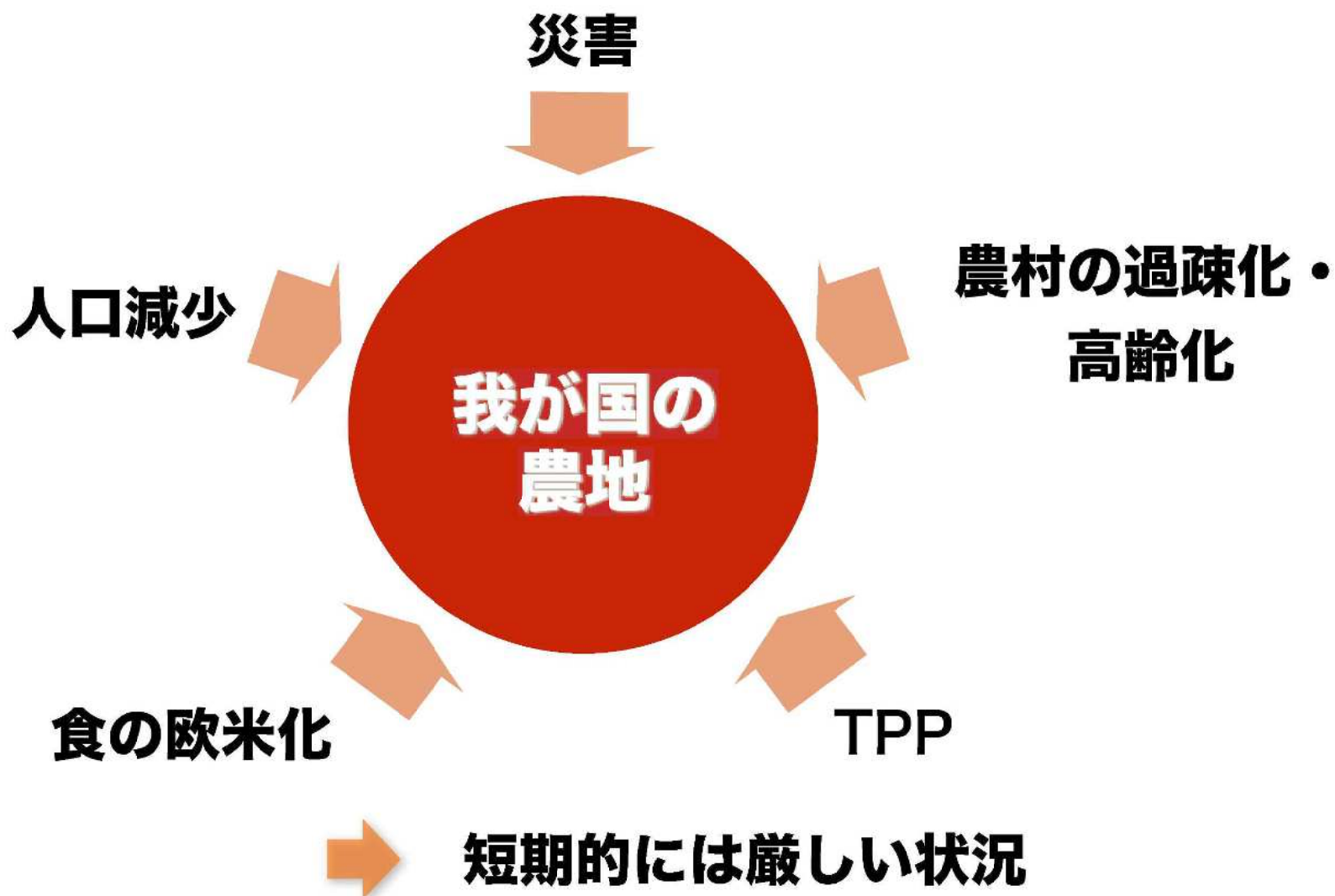
農地の減少抑制・水害抑制



田んぼダムの意義



我が国の農業を巡る環境





田んぼダムの役割

